

ゆゆうき

2013/04 春号

41号

通刊78号

<http://www.kumayuken.org/>
✉ info@kumayuken.org

農林水産省登録認定機関・NPO法人 熊本県有機農業研究会 発行
〒861-8028 熊本市東区新南部 2-5-13 TEL:096-223-6771 FAX:096-223-6772



【絵：小川美弥子】

サラダには定番の、緑鮮やかな葉野菜。グリーン〇〇〇、リーフ〇〇〇など彩りや食感のバリエーションも楽しめます。

- ＊ ゆうきフェスタ2012報告
- ＊ 九州山口有機農業の祭典報告
- ＊ オーガニック食クエスト
【ベジ食堂 そらの実】
- ＊ 各部会の活動
- ＊ 総会報告ほか
事務局からのお知らせ

連載企画！ 種＊花クイズ

Q.右の写真は何の野菜の花
でしょう？

- ＊ 正解者の中から抽選で3組（計6名様）に、有機食材を使ったレストラン等で使える約1000円相当のチケットをプレゼントいたします。こたえがわかった方はぜひ応募下さい。
- ＊ 応募先やチケット利用可能店など、詳しくは6面へ！

種はこんな姿ですー
（出典：ウィキペディア）



身土不二

熊本県有機農業研究会 会員
（熊有研 前事務局長） 吉川 直子

農業は社会の礎。学生時代、そう、ちょうどハタチの頃にそう思い込んで以来36年。
卒業後は直接農業と関わる術のないまま、「区民農園」に電車で行き、意気だけは軒昂ながら自らの空つ下手に呆れつつ東京でOLをしていた。

やがて仕事と家事・育児に追われて農園通いからは足が遠のく中、東京で子育てを続けることに疑問を抱くようになり、連れ合いの就労を機に熊本への移住が実現した。

くまもと生協での産直活動を通し、初めて有機農家の方たちとの縁に恵まれ、圃場見学や作業体験、作付会議・勉強会などに積極的に参加した。土づくりをはじめとする有機栽培の工夫や実際はもとより、農業・農家が直面する様々な課題や農政の問題点等についても目を開かされた。野菜の生育や旬を知り、食生活の基本を学んだ。そうした機会を通し、「農業問題」はむしろ消費者の問題であることを認識し、仲間とともに消費者（組合員）への呼びかけに力を注いだ。

農家の皆さんとの接触は、文字通り日々の暮らしのカルチベートでもあった。稲が実れば「鳥が食う分くらい、鳥にも分けてやればよい」と言い、不作には「いい時も悪い時も」と笑う懐の深さ。田畑での器用な身のこなしや、土や作物の状態を見極める確かな眼。経験が蓄積された多様な知識や、道具や機械の加工・メンテナンス等々、身辺一切に係る優れた技能。農家ってほんとにすごい！と舌を巻いた。

そして何よりも有機農業への熱い思いが胸に染み込んだ。子や孫の代にこれ以上のつけを残さないよう環境への負荷をできるだけ減らせる農業を。地域の自然循環に寄り添い、生きとし生けるものの命を愛おしむ持続可能な農業を。そして自然の恵みに感謝し、足るを知る生活。そんな願いを込めて生産される農産物にはおいしさに加え、自分もその循環の一端に加われるような心地よさがあつた。共感し応援してくれる消費者がいなければ、自分たちは自らが目指す農業を實踐できないとの言葉にも励まされた。

人同士の信頼が要と語った生産者の言葉が印象に残る。そしてまた、農産物は輸入できても環境は輸入できず、「耕作放棄地」と言うけれど本当は耕作断念地であること、さらに脱原発・脱成長が、私にとつて今後を考えるキーワード。農業も農家も消費者も、皆が元気になる社会を目標に、消費者同士もう一度タッグを組み、農家の皆さんと手を携えて私たちの農業問題に取り組んでいこう。改めて「消費者のDEMANDA（出番だ）」。私たちの消費行動と食の在り方が農業を、そして社会を変えることを自覚し、自らの役割をともに果たそう！
最後に一今春、熊本を離れることになりました。たくさんのお礼を教えてくださった熊本の皆様、特に農家の皆様に心よりお礼申し上げます。熊本こそ我が故郷。ありがとございました。
※文章中の「有機」は、「推進法」でいうところの有機農業を指したものです。

熊本オーガニックの祭典

ゆうきフェスタ 2012

熊本の誇り 未来に種まく有機農業

日時：2012年11月18日(日)

場所：熊本県農業公園カントリーパーク

今年で13回目を迎えたゆうきフェスタ。全国有数の歴史と規模を誇る熊本の有機農業の特色を活かして、有機農家・農産物を主役に、未来につながるお祭りをめざして開催しました。お天気にも恵まれ、ほかほか陽気のなかで過ぎた一日。79団体の出展者と、約5600人ものご来場者、それぞれの想いが集い重なることで作り上げられた当日の様子をご紹介します。

有機野菜生産者と野菜ソムリエの共演
キッチンスタジオ！

午前中のイベント「キッチンスタジオ」では、試食を楽しんだ上に会場でレシピと材料も入手できる二段構え。さらに買った野菜は一旦ティピ（というテナント）で預かってもらえるアフターサービス付きで、お子様連れの方々にも好評でした。さらに、料理のテーマは「使いきりレシピ」！ニンジン、葉からサトイモの皮まで、大抵三角コーナー行き部分の部分が、ドレッシングやチップスなどの「もう一品」にリメイクされる様子を、皆さん神妙な顔つきで見学されていました。また、身がやわらかい在来種「ぼうぶらカボチャ」を濃厚スープに変身させるなど、素材の持ち味を活かすレシピ紹介もあり、併せて野菜の里親生産者のアピールコーナーもあり、まさしく生産者と野菜ソムリエのコラボ！両者のみならず、ステージと観客席のバリアフリー化も実現できたステージでした。

今、被災地のためにできること リレートーク&ソングス

「できれば止めたいけど、今の便利さを手放したくない」
午後に行われたリレートーク&ソングスでは、そんな煩悶に喝を入れる話が繰り広げら

【キッチンスタジオ】

「野菜ソムリエの会 熊本」のメンバーのみなさんと、出展者である8団体の生産者がペアを作り、おすすめの食材をテーマに素材を生かした作りやすいレシピを提案



【リレートーク&ソングス出演者】

送る・暮らす…間司さん
守る…浦川繁さん
受け入れる…森田加代子さん
未来のために…熊本佳子さん
ソング：flexlife

れました。安全な野菜を送ることと被災地を支える人。苦渋の決断で故郷を離れ、新天地で農業を始めた人。そして、そんな方々を受け入れ、心身のリフレッシュを助ける人――。「生活を原発に依存したくない」思いから、エネルギー自給に踏み出した人、「NO」と声を上げ、原発建設を阻止したりと、それぞれの決意が行動を引き出し、「絶対」だった原発から離れる選択肢を提示されていました。四者四様の生き方で、同じなのは原発のない未来を願う心、違うのは各々の持ち場から展開していくアクション。それぞれの業界の「達人」から多様な暮らし方を学べる、含蓄に満ちた講義型イベントでした。

今回は有機農産物と有機農家を主役にしたお祭りをめざして「キッチンスタジオ」などを企画しました。リレートークでは多くの方の共感を呼び、今、そして未来で有機農業が担う役割や希望を共有することができたと思います。

食や農への関心の高まりは、裏を返せばそこに多くの課題があるということ。次回も、それらの課題に向き合いながらも、わくわくするようなフェスタに向けて走り出したいと思っています。

野菜や有機を学べるコーナーや 毎年恒例お楽しみ企画も満載！



野菜ソムリエさんのブースでは、野菜の使い方などを丁寧に説明。他に有機JASパネル展示やガラポン抽選会、ロアッソ熊本コーチによる親子サッカー教室も盛り上がりしました。また環境に配慮したイベントとして、食事にはリユース食器を使用する取り組みを行いました。

有機の野菜や米、こだわりの食材や 身体に優しい手作りの食べ物が大集合！



今年もたくさんの出展者さんに登場いただき、有機野菜・有機米をはじめ、無添加調味料や天然酵母のパン、原料からこだわって作られた美味しい食事、オーガニックコーヒーや手作り雑貨など、広い会場に多くのブースが並びました。朝から夕方まで、たくさんの来場者で賑わいました。

映画上映

「ミツバチからのメッセージ」

1990年代のヨーロッパに端を発し世界各地に広がるミツバチの減少や大量死。この作品は日本



の大量失踪現場からの緊急報告で。鑑賞された方々は熱心に見入っておられ、大人から子どもへ説明する姿も見られました。

新規就農支援コーナー

熊本県農業公社の新規就農支援センターと、新規就農者OBを中心としたメンバーと合同で設けたコーナー。新規就農を希望する方や、受入れ農家についての問合せなど、一日を通して相談が寄せられました。



こんにゃく作り体験講座

熊有研食農育部主催で、昔ながらのこんにゃく作りに挑戦。練りの作業では子どもたちも気合十分。ゴロンとした芋からつるつるのこんにゃくが茹で上がり、貴重な体験を通して先人の知恵と手作りのおもしろさを学びました。



出展者一覧

79団体に出演いただきました！（順不同）おかげさまで賑やかなお祭りとなり
本当におつかれさまでした。これからもよろしくお願いします！

株式会社 有光
宇城市有機農業推進協議会
MOA自然農法 熊本県連合会
株式会社 果実堂
一般社団法人クリーン帯山
財）自然農法国際研究開発センター
くまもと有機農業推進ネットワーク
courtyard&...
GREEN NOTE
（有）シリカファームしすい
そらもも、b b 雑貨店
（有）チェルシーインターナショナル
（社）農文協九州沖縄支部
人吉市有機農業推進協議会
松合食品（株）
ミツル醤油
山都町有機農業協議会
熊本新規就農者ネットワークとyou+you有機生活者グループ
青砥さんちの野菜畑
アンデス物産
うさぎ舎
パン工房 季節の酵母パン
KENGOMA
ごはん屋うってー
さとめいどーハンドメイドショッパー
くまもと産直クラブ
食工房「わが家」

tonttu X Kei's-factory
twinmoon & 私への贈り物
のむら自然農園
畑まるごとマーケット「有機生活」
フェアトレードシティくまもと推進委員会
堀内油屋
株式会社マルタ
美里ゆうき共同農園
麦の穂
NPO法人 メダカの学校
希紡農園
antenna commu Anyo
equipment:FLOOR
CAFE VIALE BAGEL STORE
olmo coppia
生活協同組合 熊本いのちと土を考える会
&グリーンファーム熊本
「九州の食卓」
（有）くまもと有機の会
玄米菜食 ちーらびCafe
ナチュラルクラフト斉藤さん
ピース工房RiRi 上田さん
カフェ ココペリ
秀明自然農法ネットワーク
NPO生活と教育
健康農園 堤 公博
（有）つのだ青果

つなぐかふえ とうから屋。
11November
日米ファーム(株)
百草園・千草会・万葉村
POPCOFFEES
mamy's つぶつぶキッチン
料理研究舎 リンネ
株式会社 緑の資産
BIO SALUTE・田園キッチン・みゆきの里
自家製天然酵母 むぎのたね
山都町農産物出荷協議会
養生伝承館&養生農園
中重企業（株）九州支社
野菜ソムリエの会
九州農政局 消費の部屋
くまもとグリーン農業推進本部
くまもと清陵高等学校
ぎんなん太鼓
東海大学 肥後のたまもの
熊本県厚生農業協同組合連合会
国際竹とんぼ協会
肥後ちゃんかけごま保存会
ロアッソ熊本
東海大学農法研究部
熊有研 種苗部、食農育部、広報部、青年
部、菜の花プロジェクト、生ごみ循環プロ
ジェクト

◆主催 ゆうきフェスタ2012実行委員会（内田敬介委員長、安藤光一副委員長）

◆共催 くまもと有機農業推進ネットワーク

◆協賛 熊本県農業協同組合中央会、大東肥料(株)、(株)マルタグループ、株式会社ティア、(有)くまもと有機の会、(社)農山漁村文化協会 九州・沖縄支部、NPO法人メダカの学校、畑まるごとマーケット『有機生活』、くまもと清陵高等学校、医療法人博光会 社会福祉法人健成会 みゆきの里、中重企業株式会社、松合食品株式会社、(株)原田アイガモ孵化場、医療法人社団 寿量会 熊本機能病院、株式会社 有光、有機無農薬野菜生産グループ・百草園、山都町農産物出荷協議会、(有)内田安喜商店、(有)つのだ青果、健康農園、宇城市有機農業推進協議会、(株)果実堂、生活協同組合 熊本いのちと土を考える会、(有)グリーンファーム熊本、秀明自然農園ネットワーク、人吉市有機農業推進協議会、山都町有機農業協議会、美里ゆうき協同農園、岡田パン

◆後援 公益財団法人熊本県農業公社・九州農政局・熊本県・熊本市・合志市・熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・合志市教育委員会・菊陽町教育委員会・熊本県農業協同組合中央会・熊本日日新聞社・NHK熊本放送局・KAB・KKT・RKK・TKU・FMK

第20回火の国九州・山口有機農業の祭典inながさき

2013年1月26～27日、長崎県雲仙市と小浜町で開催された祭典の様子をレポートします

初日の基調講演ではまず、宮崎大学農学部の大野和朗氏が「農業と環境」と題して多様な生態系を生かした農業のあり方について講演された。海外での研究の成果も交え、農業使用による単一栽培の弊害を明らかにしながら、たどりついた方策は地域に残る伝統的な農業と同じく、自然生態系に限りなく近づけた栽培環境の構築であることをわかりやすく説明いただいた。有機農業の考え方と符合し、天敵やその棲家となる植物の情報など大いに参考になる内容で、大変好評の様子だった。

次にアジア学院の田坂興亜氏が、今アジアで起きている問題をテーマに講演。東南アジアのコメ産地では、多収穫品種やハイブリッド品種の導入と農薬の大量使用によりウンカが大量発生し、多数の地域に甚大な被害をもたらしている。その一方で、在来種を有機農法で栽培している地域ではそういった



雲仙市のハマユリックスホールで行われた基調講演の様子

2日目には、まず有志がそれぞれの想いを発信する3分間スピーチを行い、次に前日の分科会の報告を行った。その後のデイスカッションでは震災を受けて



夜には小浜温泉に移動し、長崎の有機農産物や特産品を多数使用したビュッフェ形式の交流会や、夜なべ談義で大いに盛り上がった。種をテーマにもたれた夜なべ談義は、集まった人数も多く、分科会では時間が足りなかった部分を補い、さらに今後の予定や展望も見出すことができた充実の内容だったようだ。

被害はみられないなど、生態系のバランスを重視した有機農業の意義を強く感じられる講演だった。

初日の後半には、「有機農産物の流通」、「種の未来」、「農業と環境」、「消費者から見た有機農業」、「有機農業と地域づくり」という5つの分科会がもうけられた。昨年夏に種苗交流会・交換会を行っているため、種苗交換会が行われないこととなった。

2日間の祭典に参加し、多様な植物・生物のいる栽培環境や、長年受け継がれてきた在来種などを通じて、生態系のバランスを人の手で崩すことなく地域に根ざした農業を営んでいくことが、もつとも賢明であると改めて感じた。そうした農業を健全に営むことができ、発展させていくことで、これからの健康で幸せに生きることができるようだ。またそれを担うのは生産者だけではなく、消費者、つまりすべての人にそれぞれの役割があり、見失ってはいけないことだと感じた。(広報部・出田実美)

のメッセージも多く、秋田から駆けつけた日有研の佐藤理事長が、大きな問題を抱える今の社会をみて「このままでは終われない！」と熱く語られるなど、今後も食や農の問題に向き合い力を合わせて進んでいくという想いで会場が一体となり、幕を閉じた。



終了後の現地見学会では、岩崎政利さんのほ場へ。在来種の種とりのあゆみに多くの参加者が熱心に耳を傾けていた



ベジ食堂 そらの実

オシャレなレンガのお家と、その塀に掛かる看板…は何とフライパン?! お庭を通過して裏口からお邪魔すると、ギャラリーコーナーの陶芸作品が出迎えてくれます。

住宅街に溶け込んでいるレストラン「そらの実」は、オーナーご自身に食物アレルギーがあり、「食」に対する関心が高かったことが出発点となり、始めたお店なのだそう。使用される野菜については、熊有研の会員農家さんの名前が挙がるなど、生産者との親しいお付き合いの様子が伺えました。

まず出てきたのは、そんな上質の野菜だからできる、「一品一品が主役」のプレート料理。ほうれん草のフリットや、こんにゃくの串カツは、おなじみの食材がドレスアップして登場したという感じで、新発想の味を堪能しました。その後のご飯・麺類も、玄米パエリアの大豆や根菜、汁ビーフンのトッピングの高菜とインパクトの強いキャスティングに驚くばかりでした。それらを味わいながら、その手間隙を思うと、普通の家庭料理の奥深さに気付かされます。ここで修行すれば、良妻賢母も夢じゃない! かな…? <広報部・松本恵美 記>



DATA ベジ食堂 そらの実
熊本市中央区白山2-6-24
TEL : 096-365-6520
営業 : (金)~(日)の12~19時

部会活動報告

～今年の計画編～

種苗部会

- 1月26～27日 九州・山口有機農業の祭典に参加
- 2～7月 基本的に毎月会議を開催
- 8月中旬 九州・山口種苗交換会実施
- 9～10月 ゆうきフェスタ会議参加
- 11月中旬 ゆうきフェスタ参加



青年部会

- 有機農業に関わる若手の交流、情報交換をはかる
- 新規の部員増に努める(新規就農者や若手の流通販売者、一般消費者等の情報交換の場となるような部をめざす)
- 九州山口若けえもんの集い(今年度は福岡)等の交流会に参加する
- ゆうきフェスタにおいて新規就農相談コーナー等の企画を担う

菜の花プロジェクト

菜の花プロジェクトの要点の一つは、循環型の持続可能な社会を目指すということ。バイオマスの有効活用や、化石エネルギーに頼らない再生可能なエネルギーを広めていくという、広い流れの中の一つであるので、菜の花だけに特化せずにそういう取り組みとも連携していきたい。

- 菜の花栽培とBDFの利用促進
- 県のエコ燃料研究会への参加
- 養成塾での菜の花プロジェクト講習会
- ゆうきフェスタでの展示・実演



生ごみ循環プロジェクト

- これまで通り、市から依頼される講座の講師を務める
- 市のダンボールコンポスト講座の継続を目指し、かつ、地産地消基材(竹チップ)の導入を目指して、モデルケースの実施等に力を注ぐ
- 竹チップの導入にあたっては、水あかりや崇城大学、一次産業サービスと連携し、学術的な検証、地域循環の見える化、竹チップの製造・入手方法の整備を進める
- プロジェクトの活動を熊有研のホームページにリンクしてアップする



熊有研には現在部会が6つ。それぞれメンバーが自主的に集って活動しています。

興味があるものがあったら、一緒に加わってみませんか？ お気軽に事務局までお問合せください♪

食農育部会

- 食農育活動を通して環境保全を含めた熊有研活動をアピールする
- 県内の食育活動団体、行政との連携を進めていく
- 日本古来の食べ物(伝統食)を見直しながら、時代に合う活動を工夫し進めていくー老若男女の元気が一番！<スケジュール>
- 1月 味噌作り体験講習
- 4月 野菜の使い方・保存法講座
- 6～7月 環境にやさしい生活講座(せっけん他)
- 11月 ゆうきフェスタ

おいしい手前味噌作り教室

1月19日(土)、松合食品さんのご協力をいただき、「おいしい手前味噌教室」を開催することができました。健康を育む発酵食品(味噌・醤油)の大事さを、工場見学と合わせて、地元産の原料で自ら手作りしてもらえたらとの主旨で実施。参加は29名でした。大豆を煮たり、麦麴や自然塩もほとんど松合さんで揃えてくださり、大変ありがたかったです。昼食までお世話くださり、参集された皆さんにも喜んでもらえたようです。

生きた酵素に触れ手を動かしながら、会話し、大豆を手で細かくし、丸め、樽に空気が入らないよう詰める作業。会場で眺めていると、手作りした味噌を持ち帰れるぞとの嬉しさで、熱気いっぱい。ひとつの食べ物を学ぶことで、「医・食・農」のことが総合的に学べた良い機会になったようです。一人でも多くの方々に、健康を保つ食べ物に関心をもってもらい、そして熊有研の仲間をつくれたかなと思います。

次また同じようにとなると厳しいけど、形を変えて、安全で美味しい食べ物作りに努力している生産現場に出かけられるように工夫したいものです。(市来眞)

松合食品株式会社

自然と健康、安全な食を求めて、大豆や麦は契約栽培で自然有機農法による原料を確保。食品添加物等を排し、天然醸造方式によりしょうゆ、味噌、酢を製造しています。一般価格と大差なく、色、味、香りともに大変好評です。

また、2013年には第53回熊本県農業コンクール大会において栄えある『農業貢献賞』も受賞されました。

広報部会

- 会報「ゆうき」の発行
- 部員増をめざす
- ゆうきフェスタ等、関係イベントの取材
- 有機農業・有機JASを広く知ってもらう方法の模索

◆10～3月活動報告◆

- 10/13(土) ゆうきフェスタ2012出展者会議
第5回実行委員会
10/18(木) 有機JAS講習会
10/28(日) 第7回判定委員会
10/31(水) 養成塾集合セミナー
11/06(火) ゆうきフェスタ2012第6回実行委員会
11/18(土) ゆうきフェスタ2012
11/28(水) 養成塾集合セミナー
11/29-30 農水検査員研修会(熊本市)
12/02(日) 第5回理事会
12/05(水) 審査員研修会
12/07-08 全有協12月全国集会(埼玉)
12/09(日) 第8回判定委員会
12/21(金) 第1回熊本県有機農業研修会(合志市)
1/12(土) 第6回理事会、ゆうきフェスタ2012反省会
1/18(金) 有機JAS講習会、養成塾集合セミナー
1/20(日) 審査員判定委員合同研修会
1/26-27 九州山口有機農業の祭典(長崎)
2/3(日) 第1回判定委員会
2/9(土) 第7回理事会
2/16(土) 第13回通常総会
2/19(火) 資材評価協議会講習会
2/20(水) 養成塾集合セミナー
3/7(木) 養成塾集合セミナー
3/9(土) 理事打ち合わせ
3/13(水) 審査員研修会
3/18(月) 第2回熊本県有機農業研修会(合志市)
3/24(日) 第2回判定委員会
3/27(水) 養成塾集合セミナー

○●今後の予定●○

- 4/3(水) 有機JAS講習会
4/5(金) 2013年度養成塾開始式
4/18(木) ゆうきフェスタ2013実行委員会
4/27(土) 第1回理事会
4/28(日) 第3回判定委員会
5/15(水) 審査員研修会
5/26(日) 第4回判定委員会
6/9(日) 第14回通常総会

▼NPO代表となり早一年。事務手続きは苦手なままですが、気になる人に名刺でアピールするなどタフに(図太く?)なっていると自覚する今日この頃です。これからは、先輩NPOたる熊有研を目標に精進します!(松本)
▼今年は事務局体制や事業年度の変更もあり、春から切り替わることがいろいろとありました。新しい気持ちでまた一年、やっつけていきたいと思います(出田)

広報部 編集後記



このタイトルは、熊有研会報第1号から使われていたものを縮小したものです。

第13回通常総会報告

2月16日(土)、崇城大学市民ホール(熊本市会館)にて第13回通常総会を開催し、2012年度事業報告・決算、2013年度事業計画・予算を審議、承認しました。役員改選年次であったため、今総会にて理事18名、監事2名を選出しました。また、行政をはじめとする関係諸機関・諸団体との連携にあたり事業計画・予算案等の検討がしやすいよう、事業年度を「4月1日から翌年3月31日まで」に変更することを提案し、承認しました。それにより、当期は2013年1月1日から3月31日までとなり、6月に第14回通常総会を行う旨事務局より説明を行いました。

閉会后、内田敬介理事長退任と、新理事長を青木悦朗氏とすることを発表し、新体制のもと新たなスタートがきられました。

【役員一覧】

理事：渡辺眞明、間澄子、市来眞、坂本幸誠、荒毛正浩、森田良光、青木悦朗、田中秀雄、坂梨敏行、徳永直喜、緒方健、山川李好子、福山曉三、橋本忠昌、緒方さち子、徳田勇次、安藤光一、奥山真理子
監事：養田友宏、古莊洋子

【6月に第14回通常総会を行います!】

事業年度を「1月1日～12月31日」から、「4月1日～翌年3月31日」に変更したことに伴い、6月9日(日)に第14回通常総会を行います(今後は毎年6月頃に開催)。

総会同時
企画!

「有機農業で生きる—私たちの選択」上映&意見交換会



食と農に大きな問題を抱える現代社会。この作品は、「有機農業という生き方」を実践する農業者や理解者の姿や言葉をとおして、経済成長を優先し本当の豊かさを見失いがちな今の社会をどう変え、どう生きるかの答えを伝える作品です。ゆうきフェスタに招いた埼玉の金子美登さんや福島の前野正寿さんも登場しています。

当日は作品をいくつかの区切りに分けつつ、有機農業の今後や食育についてなど、意見交換をしながら鑑賞。震災の影響もあり、食べ物への関心や新規就農の動きも確実に高まるなか、農業は単に食べ物を作るだけではないこと、有機農業を選択することの意義をもっと伝えていきたいという熱意に満ちた意見交換会となりました。



フェイスブックページを始めました! 各種お知らせやHP更新情報などを発信しています。http://www.facebook.com/kumayuken

ごあいさつ

このたび事務局に加わりました柴田と申します。

震災後、以前は当たり前だと思っていたことがそうでないことに気づきました。サラリーマン生活をしている中で、食卓に並ぶものの、身につけるものなどすべて自分が作ったものではないという現実疑問を感じ、震災を機に家族で熊本県に移住してまいりました。

熊本から大地の恵みと安心安全な食を全国に発信しようと、新規就農&熊有研スタッフの2足のわらじでがんばっています。よろしくお願ひいたします。

チケット利用可能店

- | | |
|--------------------|---------------------|
| *エヴァダイニング(福岡市) | *ピストロ・シェ・ル・コパン(山鹿市) |
| *レストラン大河(益城町) | *ちゃぶ台(玉名市) |
| *泉力の湯(西原村) | *風流(西原村) |
| *カフェテラス野の花(黒髪) | *ピオサルーテ(駕町通) |
| *プライベートロッジ(並木坂) | *オルモ・コッピア(阿蘇市) |
| *土に命と愛ありて ティア(本山町) | <順不同、3月現在> |

種*花クイズ 応募方法

表紙のクイズの答え・住所・氏名・電話番号・ゆうきの感想をお書き添えの上、郵送かFAXまたはメールにて、下記宛先までご応募ください。

●問合せ・応募先

〒861-8028 熊本市東区新南部 2-5-13
FAX:096-223-6772
MAIL: info@kumayuken.org

※前回のこたえは「さつまいも」でした。